



# バッハの森通信

第 139 号  
2018 年  
4 月 20 日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9 <http://www.bach.or.jp>

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699 e-mail : [info@bach.or.jp](mailto:info@bach.or.jp)

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

## バッハの森の目的

### 教会音楽から元気をもらう活動

今年は3月になっても寒い日が続きましたが、4月になった途端、たちまち桜が満開になり、桜吹雪が舞っていたと思ったら、あっという間に葉桜になりました。このように春が来て桜が咲く頃、全国の小学校が始まり、うちの子も小学生になりました、という報告がありました。

ところで、私たちは春4月に学校が始まるのは当たり前だと思っていますが、世界各地では、むしろ秋に始まるのをご存知ですか。私は10数年間エルサレムのヘブライ大学に留学していましたが、大学の始まりが、秋、それも太陰暦によって、9月になったり10月になったりするのに戸惑いました。

ここでクイズ。週末とは何曜日ですか？多分、皆さんは、土、日と答えるでしょう。いいえ、本来、日曜日は週の初めでした。「安息日が終わって週の初めの日にイエスは復活した」と福音書は伝えます。週末の土曜日を安息日に定め、仕事を休めと定めたのは、大昔のユダヤ人でした。そこで、ヘブライ語では日曜日を(週の)「第一日」と呼びます。実際、日曜日になると、お店も学校も役所も一斉に開いて仕事を始めます。週の初めは月曜日、という固定観念を訂正するのは結構大変でした。

\* \* \*

エルサレム留学中に修正した私の“常識”を説明するために、少々自分史をお話しします。私はクリスチャンホームで育ちました。10歳で死別した父は変わった牧師でした。ジャーナリスト、YMの市民大学、医療組合などに関ったようですが、晩年の彼は、日曜日に教会ではなく、知人の家を訪問して少人数の家庭礼拝をしていました。まだ文字の読めない幼児の私に、聖書を朗読して聞かせ、それを暗記させました。終戦の年、私が14歳の年末に母が亡くなり、孤児になった私たちを、両親を慕って集まっていた方々が助けてくださいましたが、高校生の私は生意気な少年でしたから、教会にそっぽを向いていました。クリスチャンと別れて“普通”の日本人になりたかったのです。

しかし、大学2年生のとき、何かを求めて教会に

行ってみる気になりました。ところが、どこに行ってもただ「信じろ」と言われることに嫌気がさし、結局、両親の友人だった賀川豊彦先生を訪ねると大変に喜んでくださり、「大切なのはキリストの愛を実践することだ」と言われて感動して洗礼を受けました。それ以後、20代の私は熱心なキリスト教徒でした。深津文雄さんと出会いがあって旧約聖書を学び始め、神学校に行き、彼が始めた婦人保護施設で働き出しましたが、学問をもっと追究したかったことと、日本社会の閉塞感を突破したくて、30歳のとき、聖書の国、イスラエルに留学しました。

\* \* \*

それまで、聖書に登場する歴史上のユダヤ人しか知らなかった私の“常識”は、実在するユダヤ人の間で暮らしてみても完全に覆されました。先ず、2000年に及ぶキリスト教徒によるユダヤ人迫害の歴史を学んだとき、キリスト教と教会を客観的、相対的に見直すようになりました。ナチの強制収容所で腕に彫られた囚人番号の刺青をした人々を、まだ町中で見かける時代でしたから、ユダヤ人迫害の説明にはいよいよ説得力がありました。

同時に、ユダヤ人がイスラエル国を建国したため生じたと言われるパレスチナ問題も、ユダヤ人の友人たちと大いに議論しましたが、複雑な真相が垣間見ただけで、解決策はないという現実論が正しかったことは、あれから50年たった現在、いよいよ混迷を深める中東情勢が証明しています。それにしても、この国もいつ無くなるか分からない、という彼らの危機感が印象的でした。

他方、ローマ・カトリック教会、プロテスタントの諸教会とは別に、東方教会と呼ばれる多数の教会が、聖都エルサレムに集まっているのも驚きでした。何となく知っているつもりだったキリスト教も、知らないことの方が多かったのです。

このような自分史を持つ私が、教会オルガニストの一子と、エルサレムで結婚したことがバッハの森の原点になりました。残念ながら一子は10年前に亡くなりましたが、バッハの森の活動は続いています。キリスト教が生み出した文化遺産の中から教会音楽を取り出し、そこから普遍的な精神性と芸術性を吸収する活動です。言い換えれば、バッハに代表される教会音楽に感動して元気をもらう活動です。皆様のご参加をお待ちしております。(石田友雄)

## 神の小羊 自分の命で他の命を生かす者

\*この解説は、去る3月18日に開いたバツハの森創立記念コンサート「受難のしらべ」で朗読した文章の修正です。

ナザレのイエスをメシア、すなわち、キリストと信じてつき従っていた弟子たちは、彼が十字架で処刑されたとき、生きる目標を一瞬にして失いました。その直後、彼らが四散したのは当然です。しかし不思議なことが起こりました。彼らは復活したイエスに次々と出会い、イエスが本当にメシア（キリスト）であったことが分かった、と言い出したのです。彼らの不思議な経験が、本当はどういうことだったのか、今、検討しませんが、弟子たちが立ち直ったことは紛れもない歴史的な事実です。そうでなければ、キリスト教は成立しませんでしたし、その信仰がその後2000年にわたって継承され、数々の優れた文化遺産を生み出すこともありませんでしたから。

### キリストが受難した説明

こうして覚醒した弟子たちの活動の中心は、イエスがキリストであったことを、（後に旧聖書聖書と呼ばれる）聖書によって証明して、人々に伝えることでした。それは、なぜメシアが十字架にかけられて処刑されたのか、という疑問の説明から始まりました。この説明が、共通の伝承をそれぞれの立場でまとめた、4冊の福音書の受難物語になります。

福音書は、イエスの教えと活動を伝える短いエピソードを集めた書物ですが、その中で、受難物語だけは、他の箇所とは全く違う語り口で、何章にもわたり、イエスの受難の経緯を詳しく語ります。これに対して、受難をしたイエスを端的に表現する言葉として、彼を「神の小羊」と呼びます。

これは、古代イスラエルに始まる文化的伝統の中から生じた呼び名でした。まず知っておかなければならないことは、彼らが遊牧民の伝統に従って、神に動物の犠牲を捧げる祭儀を守ってきたことです。犠牲になる動物は、羊、山羊、牛、鳩などでしたが、この中で、特に人間と非常に親密な関係を持つ動物は羊でした。一方で、羊は羊飼いの保護なしには生きていけない家畜でした。言い換えれば、野生の羊はいませんでした。この状況を詩篇23篇はよく伝え

ています。羊飼いによって、青草の野や水辺に導かれ、途中の危険な道で護られて、初めて羊は生きることができたのです。他方、羊飼いは、迷い出た1匹の羊を99匹を残しても探しに行き（マタイによる福音書18章12節）、羊一匹一匹を名前呼び、羊のために命を捨てます（ヨハネによる福音書10章）。

### 自分の命で他の命を生かす

このように、人間と特に親密な関係を持っていた家畜の羊は、しばしば人間の身代わりになりました。神に信仰を試された族長アブラハムが、独り息子イサクを犠牲として捧げようとしたとき、与えられた1匹の雄羊が、イサクの代わりに犠牲にされました。この物語は、イサクの命と雄羊の命が、同等に尊い命であったことを示しています（創世記22章）。

イスラエル人の先祖が、奴隷にされていたエジプトから脱出した夜、脱出を助けた神ヤハウェから、傷のない雄の小羊を屠り、その血を入り口の柱と鴨居に塗り、その肉を家族で食べるよう命令されました。その夜、ヤハウェはエジプトの国中を巡り、入り口に小羊の血が塗られていない家の長男を全て殺しましたが、血が塗られている家は「過ぎ越し」しました。この事件を記念する過越祭は、選民イスラエルの始まりを記念する祭りとして、現代に至るまでユダヤ人は守ってきました。

受難物語によると、イエスが12弟子と守った最後の晩餐は過越祭の正餐でした。この物語には、十字架上で血を流したイエスの受難を、自分の血で死の侵入を防いだ過越の小羊によって説明する意図がありますが、洗礼者ヨハネは、はっきりとイエスを指して「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と呼びました（ヨハネによる福音書1章29節）。ここで注目すべき言葉は「血」です。古代イスラエルで、血は命とみなされていました。従って、イエスは過越の小羊のように、自分の血、すなわち、命によって人を死から護ったのだ、と弟子たちは説明したのです。

「神の小羊」、ラテン語で「アニユス・デイ」は、その後、式文として定着してミサの最後に唱えられるようになりました。この式文は、「私たちに平和を与えてください」と祈願して終わります。これは、神に犠牲として捧げられた小羊のように、自分の命を犠牲にすることによってのみ、他の命を生かすことができる、すなわち、平和が与えられるという真理の確認に他なりません。（石田友雄）

## 受難を鮮明に身近に感じさせる受難劇

バッハの森の創立記念コンサートは、毎年、3月21日前後の日曜日に開かれるので、しばしば復活祭前の受難をテーマにします。今年は「受難のしらべ」と題して、受難のコラール、テネブレ（暗闇）の朝課、神の小羊という3部構成のプログラムでした。

まず、ハンドベルの点鐘に続き、J.S. バッハのオルガン編曲「おお、人よ、お前の大いなる罪を嘆け」（BWV 622）が鈴木由帆さんによって演奏され、このコラールについて石田友雄先生の解説がありました。それによると、500年前の宗教改革の時代に、福音書が伝えるイエスの受難物語を、一般民衆が理解できるようにドイツ語のコラールにして歌うことが始まりました。これはその代表的なコラールで、1節では、なぜイエスが受難しなければならなかったかを語り、最終節の23節では、イエスの受難に感謝し、その教えに従って生きていこうと勧め、途中の2節～22節で受難の経緯が詳しく語られます。解説の後でハンドベルの前奏とオルガン伴奏により、2節～22節の要旨朗読を挟み、1節と22節、23節を参加者一同で歌って味わいました。

次に、T. L. de ヴィクトリアの「暗闇の朝課」の応答唱より3曲歌いましたが、その中心は、合唱と朗読による「ヨハネの受難」でした。友雄先生の福音史家が落ち着いた心地よいトーンで物語の筋を語っていく合間に、クワイアのメンバーがそれぞれ担当する登場人物の台詞を朗読し、それを全員でラテン語で歌いました。厳しい状況をヴィクトリアはへ長調の平安な響きで表現します。指揮者の比留間恵さんが、その都度与えてくださる各パートの音程を把握してアカペラで歌うため、その都度一同に緊張が走りますが、それが歌詞内容にふさわしかったと思いました。私は（女声最長老のせい？）ローマ総督ピラトの役をいただき、罪のないイエスに十字架の判決を宣告しなければならなかったピラトの苦悩に近づくことができました。「十字架につける」と叫ぶユダヤ人たちに対して、「この人を見よ」と言ったピラトの言葉が、よく知られている「馬槽のなかに」（讚美歌 21、280 番）の歌詞になっていることを思い出しました。降誕劇ほどポピュラーではない受難劇を初めて行って見て、受難の経緯がより鮮明になり、内容が身近に感じられるようになりました。

最後に、イエスを「神の小羊」と呼ぶようになった経緯の解説があり、コラール「神の小羊、罪なく屠られ」をオルガン伴奏で斉唱した後、バッハのオルガン編曲「おお、神の小羊、罪なく屠られ」（BWV 656）が、美しく、厳かに、清らかに演奏され、ハンドベルの点鐘で幕を閉じました。（安西文子）

## 受難物語に引き込まれた不思議な経験

20年前、学生だった私は、友雄先生と一子先生に勧められるまま、友雄先生が講師を務めるNHK講座「マタイ受難曲」に出席しました。そのときまで「マタイ受難曲」とは、「マタイという主人公がとんでもない災難に襲われて苦しむ曲」と思っていた私にとって、これが受難曲との出会いでした。

この講座を皮切りに、その後何度かバッハの森で受難曲を学ぶ機会をいただき、特に「マタイ受難曲」の大きな合唱部分がたまらなく好きになりました。どうして「マタイ受難曲」がバッハの最高傑作と言われるのか、いつか主人と話し合った際、つまりはテキストのすごさに尽きるのでは、という結論に至りました。聖書の受難物語それ自体のすごさです。

去る3月18日、バッハの森創立記念コンサート「受難のしらべ」で、ヴィクトリアの《暗闇の応答唱》より「ヨハネによる受難」を演奏することになりました。物語を進める福音史家は友雄先生が朗読し、そのほかの部分クワイアが朗読と合唱をしました。しかも合唱する前に、そのラテン語の歌詞を日本語で朗読する試みで、受難曲誕生前に伝統的に行われてきたという、受難劇さながらの演目でした。

そこで、いつもの合唱練習に加えて、朗読練習がスタートしました。バッハの森クワイアは、突然演劇部の体になりました。すべてのメンバーが受難物語の登場人物をそれぞれ担当して台詞を読み上げます。響きの豊かな奏楽堂で、マイクなしで聴衆に一字一句伝わるように朗読することの難しさ。つい早口になったり、棒読みになったりすると、「歌と一緒にだよ、はっきり！」と指揮者の比留間恵さんがリズムと抑揚と発声を指導します。切れ目なく続く物語の緊迫感を壊さないように、朗読直後に四声合唱で歌い出すつながりを何度も練習しました。

ついにコンサート本番、受難劇の開幕です。時は2000年前のエルサレム。刻々と迫って来る十字架のとき。私は、むせかえるような人いきれを感じながら、時には保身に走る愚かな弟子ペテロとなり、時にはイエスを尋問するピラトとなり、はたまた情け容赦ないユダヤ人の叫びに同化し、最後はゴルゴタの丘の刑場を取り囲む群衆の一人となり、十字架上のイエスをかなたに見つめている。劇的に移り変わる場面の中、朗読し歌うことによって物語の世界に引き込まれていく不思議な経験でした。

後で、この不思議な経験を、今度は「マタイ受難曲」で味わってみたいと思いました。福音史家の朗読に誘われてコラールや壮大な合唱曲を歌えたらどんなに感動的でしょう。私たち一人一人に訴えかけてくる受難物語のすごさに満ち溢れる音楽劇に参加したとき、その先にある復活の光、命の輝きを体一杯に感じるはずだと思うのです。（別所香苗）

1. 6 有志懇談会 (PRについて) 参加者 8 名。  
 1. 11, 18, 25 運営委員会 参加者 6, 6, 4 名。  
 1. 12 春のシーズン開始  
 2. 1, 8, 15, 22 運営委員会 参加者 4, 5, 6, 6 名。  
 2. 6, 7 植栽作業  
 3. 1, 8, 15, 22 運営委員会 参加者 4, 6, 5, 4 名。  
 3. 18 創立記念コンサート「受難のしらべ」  
 参加者 37 名。  
 3. 19~4. 11 春期休館

### J. S. バッハの音楽鑑賞シリーズ

#### コラール・カンタータ研究

#### コラールとカンタータ (JSB)

1. 13 新年後の主日 クリスマス・オラトリオ第 V 部「あなたに栄光があるように、神よ、と歌おう」(BWV 248/43~53); コラール「空の星々よ、虚ろな空よ」。オルガン: J. S. バッハ「誠にそのような心の部屋は」(BWV 248/53)、當眞容子。参加者 10 名。  
 1. 20 第 428 回、オルガン: J. S. バッハ「誠にそのような心の部屋は」(BWV 248/53)、當眞容子。参加者 8 名。  
 1. 27 顕現祭後第 1 主日のカンタータ「私のイエスを私は放しません」(BWV 124); コラール「わがイエスキミを放しまつらじと」。オルガン: J. S. バッハ「イエスを私は私から放さず」(BWV 124/6)、笠間きよ子。参加者 9 名。  
 2. 3 第 429 回、オルガン: J. G. ヴァルター「私のイエスを私は放しません」第 6 節、笠間きよ子。参加者 10 名。  
 2. 10 顕現祭後第 2 主日のカンター「ああ、神よ、どれほど数々の心の悩みが」I (BWV 3); コラール「数々の悩み襲い来たれども」。オルガン: J. S. バッハ「私の心を信仰のうちに純真に保ってください」(BWV 3/6)、安西文子。参加者 8 名。  
 2. 17 第 430 回、オルガン: J. G. ヴァルター「ああ、神よ、どれほど数々の心の悩みが」、安西文子。参加者 11 名。  
 2. 24 顕現祭後第 3 主日のカンタータ「すべてはただ神の御意志に従い」(BWV 72); コラール「絶えずみこころの、なること願う」。オルガン: J. S. バッハ「私の神がのぞまれること、それが常に起こりますように」(BWV 72/6)、金谷尚美。参加者 10 名。  
 3. 3 第 431 回、オルガン: J. G. ヴァルター「私の神がのぞまれること、それが常に起こりますように」、金谷尚美。参加者 11 名。  
 3. 10 第 432 回、エストミヒのカンタータ「イエスは 12 弟子を呼び寄せて言われた」(BWV 22)、オルガン: J. S. バッハ「主なるキリスト、神の御子は」(BWV 601)、海東俊恵。参加者 13 名。

- オルガン音楽研究会 1. 19 /7 名、1. 26 /5 名、  
 2. 16 (2 回)/16 名、3. 2 /7 名。  
 コラール研究会 1. 12 /7 名、1. 26 /5 名、  
 2. 9 /5 名、2. 23 /5 名、3. 9 /5 名。  
 クラヴィコード・オルガン教室 1. 19 /2 名。  
 オルガン・クラブ 1. 12 /2 名、2. 9 /2 名、  
 2. 23 /1 名、3. 9 /1 名。  
 ハンドベル・クワイア 1. 20 /7 名、2. 3 /6 名、  
 2. 10 /5 名、2. 24 /7 名、3. 3 /6 名。  
 声楽アンサンブル 1. 20 /5 名、2. 3 /5 名、  
 2. 17 /5 名、3. 3 /7 名。  
 読書会: 聖書 1. 13 /3 名、1. 20 /4 名、  
 1. 27 /6 名、2. 3 /4 名、2. 10 /4 名、  
 2. 17 /6 名、2. 24 /6 名、3. 3 /6 名、  
 3. 10 /6 名。  
 ハンドベル・リンガーズ (小学生のハンドベル・  
 クラブ) 1. 14 /9 名、2. 18 /10 名、3. 11 /9 名、  
 (昼食会) 14 名。  
 オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習  
 1. 9 /1 名、1. 11 /1 名、1. 12 /1 名、1. 13 /  
 1 名、1. 17 /2 名、1. 18 /1 名、1. 19 /2 名、  
 1. 20 /1 名、1. 24 /1 名、1. 26 /2 名、1. 31 /  
 /1 名、2. 1 /2 名、2. 8 /2 名、2. 10 /1 名、  
 2. 14 /2 名、2. 15 /2 名、2. 16 /1 名、2. 17 /  
 1 名、2. 22 /2 名、2. 24 /1 名、2. 28 /1 名、  
 3. 1 /2 名、3. 2 /2 名、3. 3 /1 名、3. 6 /1 名、  
 3. 7 /1 名、3. 8 /1 名、3. 10 /1 名、3. 14 /  
 1 名、3. 16 /1 名、3. 17 /1 名、3. 20 /1 名、  
 3. 22 /2 名、3. 23 /1 名、3. 24 /1 名、3. 25 /  
 1 名、3. 27 /1 名、3. 28 /1 名、3. 30 /2 名。

### 学習コース

- バッハの森・クワイア (混声合唱) 1. 13 /14 名、  
 1. 20 /18 名、1. 27 /11 名、2. 3 /12 名、  
 2. 10 /13 名、2. 17 /15 名、2. 24 /16 名、  
 3. 3 /17 名、3. 10 /17 名、3. 17 /18 名。